

第4回 京都エリア観光渋滞対策実験協議会 議事概要

開催日：令和4年3月16日（水）

場 所：国土交通省京都国道事務所

5F会議室（WEB会議形式併用）

1. これまでの経緯と観光渋滞対策の方向性

- 事務局から、これまでの経緯と観光渋滞対策の方向性を説明し、自動車交通の効率化と適正化に向けた検討を進めていくことが確認された。なお、主な意見は以下の通り。
 - ETC2.0を中心として国・行政レベルでデータを取得する仕組みを構築することで、道路交通行政におけるDXのような仕組みの継続性が担保されると考えられる。

2. ICT・AIの活用について

- 事務局から、機器設置状況や今回活用した画像解析技術、人流推計データについて説明し、今後ICT・AI技術を活用する上での意見交換を行った。なお、主な意見は以下の通り。
 - 画像解析技術とETC2.0プローブデータを活用したAI渋滞予測モデルの構築にあたり、教師データの扱いやインプットデータの取得位置等も含めて精度向上の可能性を検討すべきである。
 - ETC2.0特定プローブデータについては拡充が図られるので、今後の検討に有効活用して頂きたい。

3. 秋の観光シーズンにおける交通対策の効果分析

- 事務局から、既存の観光交通対策の効果検証結果について説明し、対策の高度化に向けた意見交換を行った。なお、確認事項及び主な意見は以下の通り。
 - 京都南ICや鴨川西ICに向かう交通に対して、更なる迂回誘導対策の検討が必要であることが確認された。
 - 看板による迂回誘導効果については、Webアンケートの結果をクロス集計し、ナビと案内看板のどちらに従ったというところまで分析が必要と考えられる。
 - 案内を強化するにあたり、ドライバーのカーナビゲーションの使われ方等を把握し、ナビとの連携の在り方も含めて効果的な情報提供内容や方法を検討すべきである。

4. 東山エリアにおける交通状況分析

- 事務局から、東大路通や五条坂の交通状況に関する分析結果について説明し、今後の検討にあたっての意見交換を行った。なお、確認事項及び主な意見は以下の通り。
 - 観光ピーク期の渋滞要因として確認された京都市外からの自家用車の割合は、重回帰分析においても旅行速度と一定の関係を有することが確認された。
 - ナンバープレート情報で京都市、京都府、府外の自動車交通の変化が精緻に把握されており、交通手段の今後の変化段階に応じた対策の検討を行っていくとよい。
 - 東山五条より上流側の交通量との関係性についても確認するとよい。
 - 観光者数が増えることでバスの乗降者数も増えることが想定される。台数だけではなく、乗降時間等の観点からもバスの影響を検討するとよい。

5. 今後の取り組みについて

- 事務局から、社会実験案と今後の取り組みについて提案を行い、実施に向けて検討を進めることが了承された。なお、主な意見は以下の通り。
 - 分析・評価の手当が高度化・精緻化されたことをどう上手く活用するかが重要である。
 - ミクロなエリアでの実験であるため、観光協会と連携して情報提供のターゲットや観光客の行動変容を促す訴求力のある情報発信の仕組みを検討する必要がある。
 - 実証実験を行うにあたり、予め仮説を立て、仮説を検証する上で必要な指標まで準備しておくとうよい。